

自給農耕ゼミ (小金井) 第2回

メモ事前資料
修正予定

農山村の多面的機能とエコミュージアム、エコスタディ・ツアーリズム



糸を紡ぎ、布を織りなす～点、線、面へのウェブ・ワークス



11月23日 (火・祝) 14:00～16:00

小金井市中町カエルハウスおよびオンライン (zoom)

協催：カエルハウス運営委員会、NPO自然文化誌研究会
(植物と人々の博物館／雑穀街道普及会)。

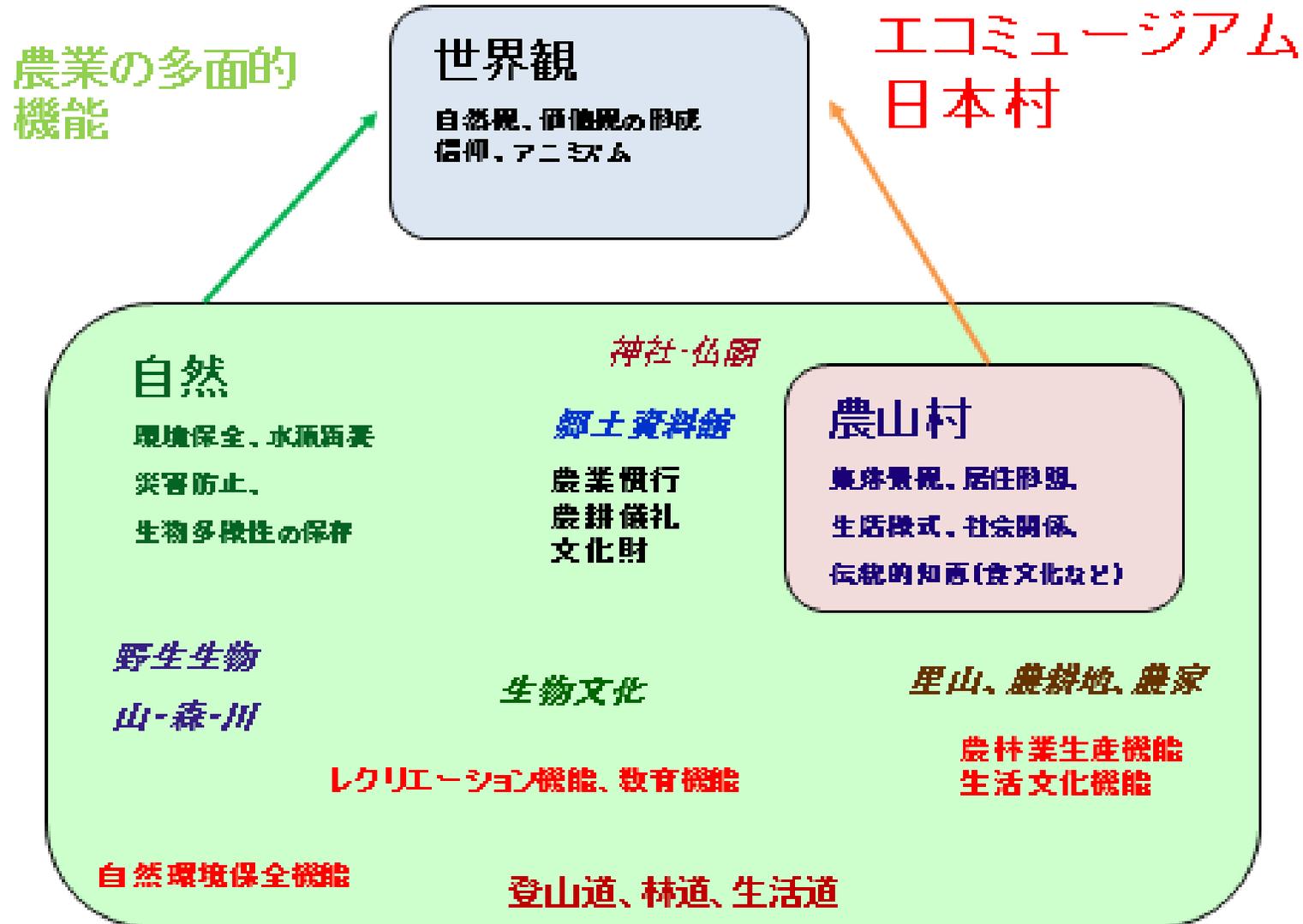
カンタベリーの市民農園

イタリアの小さい村

イタリアの小さな村の物語シリーズを見ていると、私が希求してきた素のままの美しい暮らし **sobibo** と良く合致している。イタリアの小さな村の物語の番組概要は次のように記されている。

美しく生きるということ。気候や風土に逆らわず、共存しながら暮らす。先人たちが築き守ってきた伝統や文化を誇りに思いながら生きる。人間本来の暮らしが息づく小さな村が今、注目されています。海を望む小さな漁村、山肌にはりつくように佇む村、雪に覆われた山間の寒村……。古き良き歴史と豊穡の大地を持つイタリアで、心豊かに生きる人たち。豊かに暮らす、美しく生きる、とはどういうことなのか。私たちが忘れてしまった素敵な物語が、小さな村で静かに息づいていました。番組ではありのままの時間の流れを追い、村人たちの普段着の日常を描いていきます。

農山村の多面的機能とエコミュージアム



エコスタディ・ツーリズム

環境を学びながら、保全する産業

自然、生活、文化を関連付けて楽しく学ぶ、エコツーリズム、グリーンツーリズム、アグリツーリズムなど

- むらの多様な伝統的生活文化
- ムラを半開して、むらとむらやまちをつなぐ
- むらやまちを、海外のむらやまちとつなぐ
- ゆるやかな連携づくりをゆったりする

雑穀栽培講習会 日本村塾

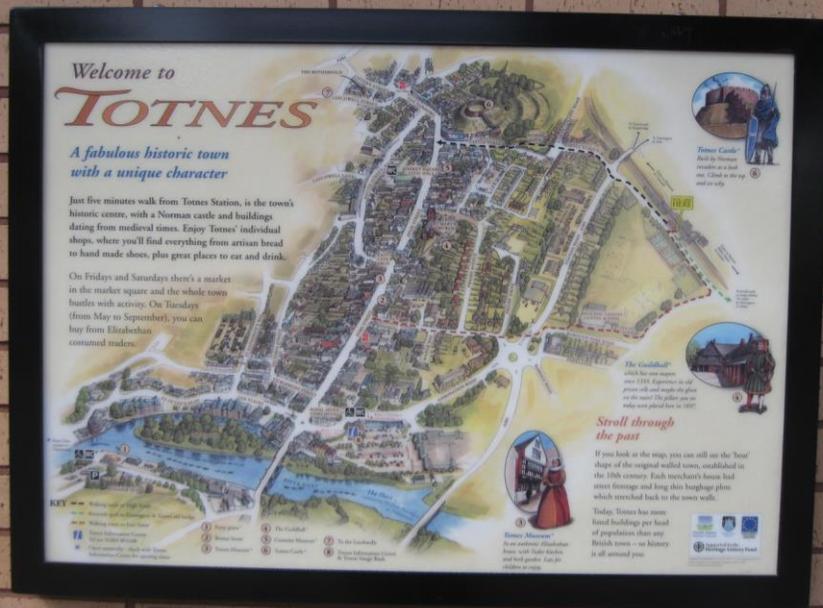
植物と人々の博物館では雑穀栽培講習会を、伝統的栽培者の指導で行っている。

上は、丹波山村の岡部良雄さん（農家）に播種法を習っている。

下は、日本村塾自給農耕ゼミで、オオムギを水車で搗精しながら、トランジション・タウン藤野の皆さんが西原の中川智さん（農家）、白水智さん（古文書学）らと伝統的山村農耕について学び合っている。



イギリス、トットネス、トランジション・タウン のファーマーズ・マーケット



イギリス、湖水地方ウィンダミア、最も美しい村バイブリーの家庭菜園



まち（都市）を考える

- 自然や山村（農山漁村）から離れたら、孤立するのは都市です。
- 都市でも、家庭菜園・市民農園を普及して、少しでも食料を自給しましょう。
- 山村（農山漁村）から伝統的な知恵を学び、持続できる社会を創りましょう。

むら（山村）から学ぶ

- 山村（農山漁村）は暮らしの中で、自然と闘い、共存し、共生をしています。
- 山村（農山漁村）は自然に添った伝統的な暮らしの知恵を蓄積しています。
- 山村（農山漁村）は水や森を保全し、食料を生産しています。

多摩川流域エコミュージアム連携協 議会創設の提案

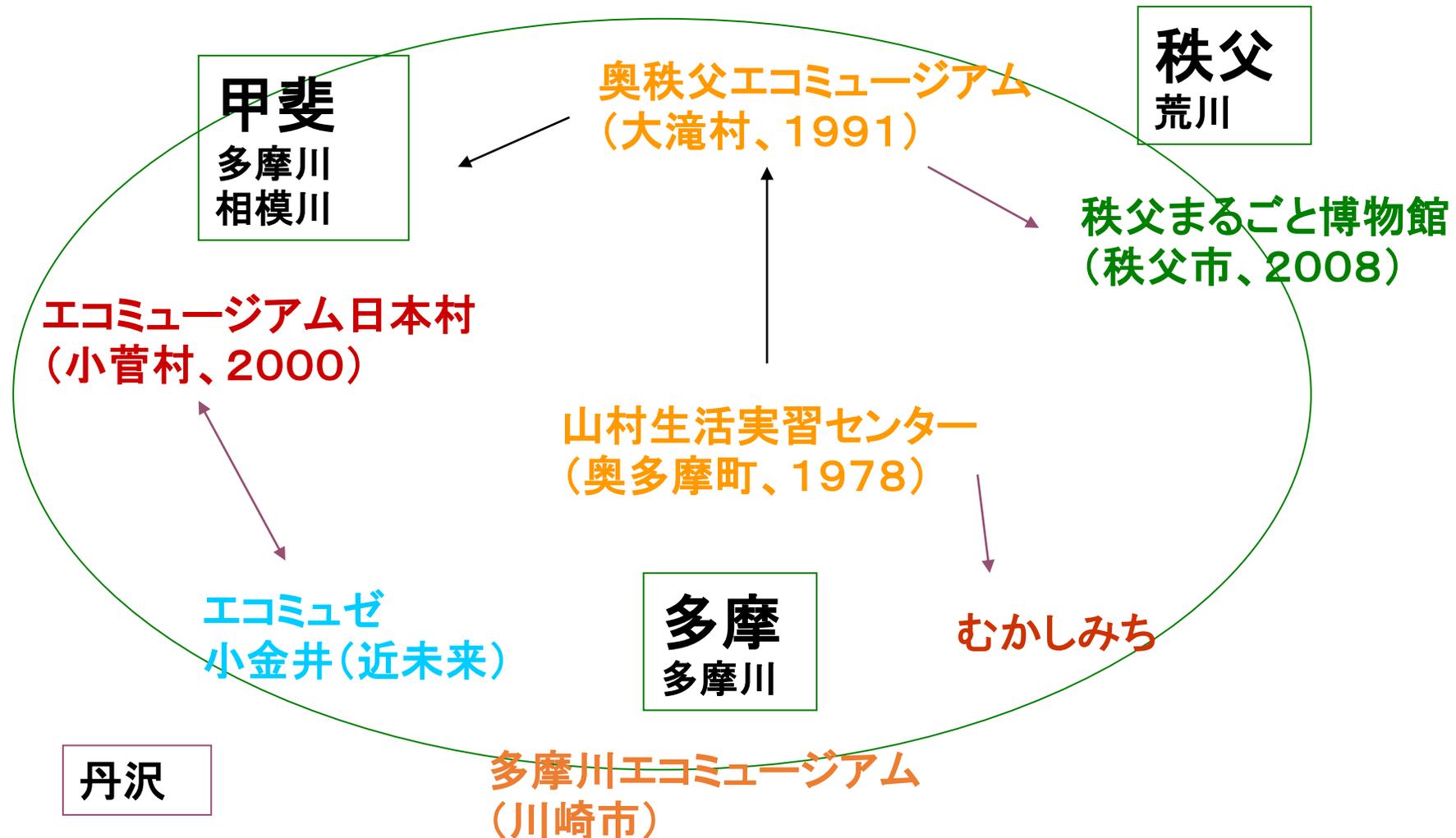
私たちは多摩川流域におけるエコミュージアム活動の振興と連携を図るために、多摩川エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム「We love Tamagawaいのちをつなぐ138」を開催しました。のべ350名の参加者により熱心に話し合いを進めた成果に基づき、多摩川流域でエコミュージアム活動を行っている団体・個人などに参加を求めて、多摩川流域エコミュージアム連携協議会（仮称）を創設することを提案します。

さらに日本エコミュージアム研究会第15回全国大会（小菅村、2009年9月）の開催に向けて、多摩川流域エコミュージアム連携協議会の創設準備を進め設立総会を経て同研究会全国大会の共催をめざします。

2008年11月15日

多摩川エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム実行委員会

秩父多摩甲斐国立公園／エコミュージアム・ネットワーク



何を提供できるのか

- 山村に対して

科学的知識の学びの場
農林業、観光業の場
教育文化の職場を作る
生活文化の保全
生活環境の改善維持

- 秩父多摩甲斐国立公園
に対して

保全しながら利用する
環境学習指導者養成
環境学習プログラム

- 都市に対して

伝統的知識の学びの場
野外自然・文化活動の場
林産物、食糧生産・供給
環境保全：森と水

- 賛助団体に対して

有意義な社会貢献
社員の環境意識啓発
環境学習教材
社員・家族の楽しみ

伝統的在来品種による商品開発 東西雑穀プロジェクト/日本

- 目的： 多摩川上流部の自然と文化の保全と中流部との学習（講習会、研修会、お祭り）や物産の交流を仲介する
- 材料生産： 小金井の江戸野菜
小菅の雑穀、豆、野菜、山菜、
木材など
- 商品開発： 郷土料理、健康食、お酒、和洋菓子、味噌、ジャムなどの保存食

目標：多摩川をつなぐ新しい地域銘菓を

多摩川上流の日本のお菓子作りの伝統を生かしながら、ユーラシア東西の伝統も融合した、新しい食材、食味、加工方法の組み合わせによる商品開発を試みて、さらに改良、普及を進め、多摩川上下流をつなぐ地域銘菓として定着させ、地域おこしに貢献したい。

おいしいお菓子は多摩川流域の人々の心をつなぐ。

いろいろな方々を巻き込んで、お菓子作りを楽しもう。

プロジェクト参加者

- 植物と人々の博物館、（特）自然文化誌研究会
木俣美樹男（代表）、井村礼恵、黒澤友彦、森田東江、菱井優介
- （特）ミュゼダグリ
宮本幹江、木村澄江、酒井文子、土井利彦 パン作りと広報
- 小金井市和洋菓子パン組合
齊藤浩ほか 和洋菓子作り
- （財）水と緑と大地の公社
小関彩子、和泉亜季、黒川文一 クッキー作り
- ハッピー・デリ
梶晶子 パン作り
- 東京学芸大学環境教育実践施設
職員・学生ほか 試食して評価

試作品

- キビのおかき + 4色大豆
- キビのショートブレッド
+ オレンジピール
- モロコシのショートブレッド
+ キャラメル・クランチ
(木俣)
- キビのパン (ハッピー・デリ)
- **のパン (木村)**
- **のクッキー (小菅の湯)**

- 試作品の内容は以下の予定です。 ※ 午前中に作りますので、試食可です。皆様に召し上がってください。(亀屋本店)
- 1. 仮称「六地蔵もち」(五平餅のアレンジで六種類の穀物を使用) 《あわ・きび・そば・麦・緑豆・米(うるち米)》
- 2. 仮称「六地蔵おこわ」(六種類の穀物が入っているヘルシーなおこわ) 《あわ・きび・そば・麦・緑豆・米(黒米と餅米)》
- 3. 「あわ大福」(つぶしあん) 《あわ》
- 4. 「きびクッキー」 《きび(粗く製粉)》

「江戸雑煮を食べよう」での展示



第6回黄金井名物市の展示

江戸野菜からの
まちおこし

東京学芸大学 環境教育実践施設

「エコミュージアム日本村」(多摩川上流の小菅村)

植物と人々の博物館

東京学芸大学環境教育実践施設では、多摩川上流の山梨県小菅村で「エコミュージアム日本村/植物と人々の博物館づくり」を進めています。その一環として、山村の雑穀を中心とした生物文化の多様性を調査研究、環境学習プログラムとして保全・伝承しています。その博物館活動の1つとして「東西雑穀プロジェクト」(小金井夢プラン連発)で、多摩川上下流住民が交流しながら雑穀を栽培・加工し、新しい地域農業の開発をめざしています。



左から、植物と人々の博物館「エコミュージアム日本村」のホール、小菅村の雑穀米中庭、午膳前の雑穀田

雑穀のお菓子

キビやモロコシなどの雑穀類は、2つのチームが商品化を試みています。1つは小菅の潤チームで、雑穀栽培地の「財団法人 水と緑と大地の公社 小菅の潤」の職員と小金井市民などの有志で構成しています。すでに試作第2号も2度の試食会で好評を得ており、商品化に向け改良を続けています。いまひとつの小金井チームは、小金井パン菓子組合の有志で、3年ほど前から雑穀を新素材にする単発会を開いてきました。本年の新穀を得て、本格的な試作をしています。



上は雑穀を使ったショートブレッド
中はアワ入りのキッズ

雑穀類の穂ドライフラワー

東京学芸大学民族植物学研究室では、世界各地の雑穀遺存種(約8000系統)を研究保存しています。日本では6種のイネ科雑穀が、伝統的に栽培されてきました。研究室では、多摩川上流雑穀の6種の雑穀(モロコシ、ソコクビエ、ヒエ、アワ、ハトムギ)と雑穀(イネ)の穂をまとめて、ドライフラワーにしています。各種雑穀のうちでもキビは、ユーラシア大陸全土において共通する最初の栽培植物の1つで、8500年前から東西文化交流を示しています。しかし、いまだに祖先種も不明で、謎に包まれています。

多摩川上流雑穀のアワ実と穂の穂の穂



連絡先: 東京学芸大学環境教育実践施設 木俣崇樹男 (Fax. 042-329-7689)
kimatami@u-gakugei.ac.jp http://www.fai.fee.u-gakugei.ac.jp/miata/

民具展示：暮らしの知恵の伝承



古老からの聴き取り調査 2006. 5



小菅産材の切り出し 2006. 12



小菅産材の展示台 2007. 3



小菅産材の木工教室 2007. 5 小金井市

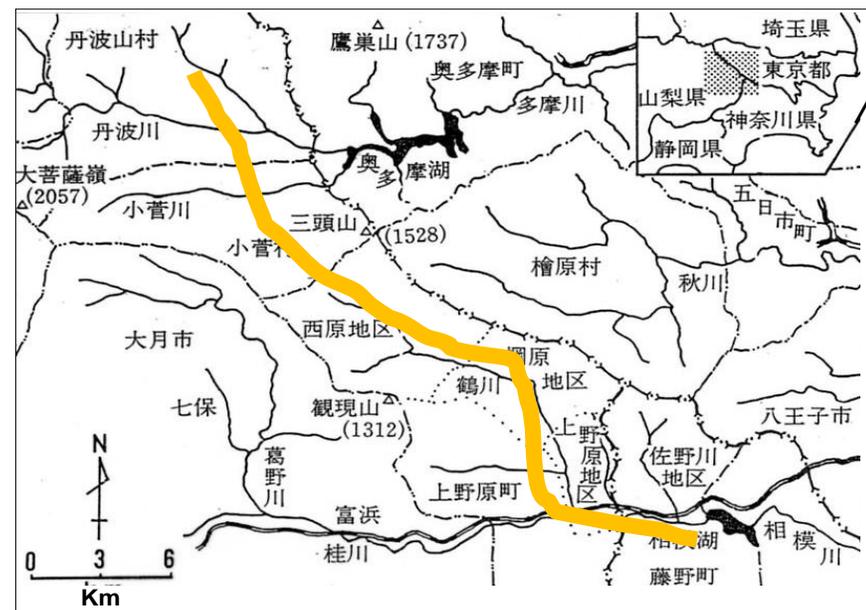
雑穀街道

Hirse Straße



雑穀を栽培する生物文化多様性が豊かな地域、多摩川水系の丹波山村、小菅村から相模川水系の上野原市、相模原市緑区までをつなぐ道を、雑穀街道と呼びます。（雑穀街道普及会）

栽培植物の在来品種を保存・継承するために種子を共有するつながりを創り、山村の農耕技術や加工・調理技術を継承し、食べ物豊かに、未来に向けて山村社会の復元力を高め、家族とともに幸せに暮らしましょう。





雑穀街道がつなぐ トランジッションタウン

- トランジッションタウン
- ◎ エコミュージアム日本村
(トランジッション小菅)
- ← 雑穀街道

- 鎌倉街道
東京都道18号府中町田線
神奈川県道・東京都道52号
相模原町田線
神奈川県道402号
阿久和鎌倉線

- ⇨ 中央ライン
- ⇨ 湘南新宿ライン

出発地 マップコード **MAPL001** : 8 216 793*22 緯度経度: 北緯:35度19分8.79秒、東経:139度33分1.47秒

目的地 マップコード **MAPL001** : 348 726 331*06 緯度経度: 北緯:35度47分22.95秒、東経:138度55分20.02秒



FAO世界農業遺産 とは

伝統的な農業と、農業によって育まれ、維持されてきた、土地利用（農地やため池・水利施設などの灌漑）、技術、文化風習、風景、そしてそれを取り巻く生物多様性の保全を目的に、世界的に重要で、持続可能な農業の実践地域をFAO（国連食糧農業機関）が認定するものです。

山地農耕を未来へ継承

写真： 上左りから右下に、①冬の麦畑、②晩春の麦、③麦秋の始まり、④収穫後、梅雨時の穂発芽、⑤脱穀、⑥水車小屋、⑦水車の臼、⑧ひきわりと丸麦、⑨郷土食おぼく

雑穀街道を FAO世界農業遺産に



佐野川の雑穀



小菅の雑穀

90歳前後の篤農が栽培を維持している。2021年夏

採種地と種子農薬処理

採種地	不明	有機種子	処理なし	農薬処理	%	合計	%
日本	3	0	36	3	7.7	42	31.3
アジア	2	0	15	6	28.6	23	17.2
オセアニア	0	0	9	1	10.0	10	7.5
北アメリカ	2	0	6	9	60.0	17	12.7
ヨーロッパ	3	3	18	4	16.0	28	20.9
アフリカ	0	0	4	0	0	4	3.0
南アメリカ	0	0	6	4	40.0	10	7.5
合計	10	3	94	27	-	134	100

種苗会社の比較

種苗会社	野口種苗	その他会社	農薬処理	野口種苗	その他会社
日本	31	11	不明	1	9
アジア	10	13	有機種子	3	0
オセアニア	1	9	処理なし	50	44
北アメリカ	1	16	農薬処理	6	21
ヨーロッパ	13	15	合計	60	74
アフリカ	3	1	%	44.8	55.2
南アメリカ	1	0	農薬処理%	10.2	32.3
合計	60	74	供試数	134	100%

表1. 事例の比較

2015-11-14木侯

	エコミュージアム	最も美しい村	源流の郷	トランジション・タウン
発祥	いつ どこで 1971 フランス、ウェッサン島エコミュゼ	1982 フランス	2005 日本、小菅村	2005 イギリス、トットネス
目的・定義	ある一定の地域において、住民の参加によって、その地域で受け継がれてきた環境と生活様式をあらわす自然・文化財産を総体にして、恒久的な方法で、研究・保存・展示・活用する機能を保障する文化機関である。	田舎の小さなコミュニティ(基礎自治体)の存続と広域連携。特性ある歴史的財産など(社会的共通資本)をもとに観光内容の質を高め、価値つけたプログラムと観光情報を提案する。協会への加盟は規程の選定基準に即す。	日本の源流域は、国土保全や環境保全の最前線に位置しており、河川の流域だけでなく、我が国にとっても非常に重要な地域。会員一同その責任を自覚し、源流域の環境などを保全に務めている。源流の恵を共有する流域の皆さんと一緒に活動していくことが必要。源流地域の重要性を多くの方々に理解していただき、協力が広がるよう「源流白書」を作成し、源流域が存続していけるよう源流基本法の制定などを提案し、その実現に取り組んでいる。	復元力resilienceを再構築し、CO2排出を減らす活動を創り出しながら、移行モデルをめぐる、自己形成するような共同体を発奮させ、励まし、つなげ、支援し、養成する慈善団体。・・・市民が自らの想像力を発揮しながら、地域の底力を発揮し、これを高めるための実践的な活動。暮らし方を少し変えるだけで、楽しく豊かに、自由になれる。コミュニティの中で、変化を作り出し、実践、共有する。
活動内容	動産・不動産遺産の目録作成、資料保存・展示、催しの企画、コレクションの充実、調査研究・普及、報告、など	最も美しい村の呼称とロゴ使用の審査・管理。観光情報の提供。景観保存、都市計画・政策、文化・自然遺産の保全。	源流域の持つ豊かな自然環境の保全に務めるとともに、源流資源の役割と機能を広く国民に訴え、国民的な理解を広げながら、流域のシンボルとして源流域の安定した生活が持続できるように全国の源流の郷が心をつなげて「参加・連携・協働の源流の郷づくり運動」をすすめること。	健康的な人間文化を創造する。イベント、会議、研修、出版、などを行う。いろいろな手法で、世界をつなぐ。・・・エネルギーや食料の自給、心身の健康、環境変化への対応、社会的課題の共有、解決努力。伝統技術の継承、学びの場づくり。
組織基盤	地方自治体、公的機関、合同組合、アンシアシオン、財団、市民	州・県、町村の行政	町村の行政	市民、市町村の行政
	国際的に広がる	国際的に広がる	日本国内に限定	国際的に広がる
規模	約90(フランス60、ベルギー3、カナダ1ほか、日本含まず) 1996	フランス157(2014)、日本54(2015)、ほかベルギー24、カナダ36、イタリア208(2011)。	22 (2015)	イギリス、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、カナダ、フィンランド、ドイツ、デンマーク、ベルギー、オランダ、フランス、スペイン、アイルランド、ラトビア、チリ、ハンガリー、ギリシャ、ノルウェー、南アフリカ、イスラエルなど、公式登録は現在479、うち、日本 3(国内47、2015)
ネットワーク	MINOM 新博物館学のための国際運動 1983	世界で最も美しい村連合会、「日本で最も美しい村」連合(2005)	全国源流の郷協議会、全国源流ネットワーク	トランジション・ネットワーク、トランジション・ジャパン
関連研究組織	日本エコミュージアム研究会 1995			
小菅村での活動	エコミュージアム日本村 2000～		提唱	トランジション小菅 2015～

参考文献: 新井重三、1995、実践エコミュージアム入門、牧野出版。大原一興、1999、エコミュージアムへの旅、鹿島出版会。

R. Hopkins. 2008. The Transition Handbook~From oil dependency to local resilience. トランジション・ハンドブック—地域レジリエンスで脱石油社会へ—、第三書館。

Guide officiel de l'association. 2012. Les plus beaux villages de France, Selection Reader's Digest.

人新世：日本での出来事を中心に

暦年	原子力関係	国連宣言	人為災害	自然災害	世界的流行	情報通信
1945	トリニティ実験、原子爆弾の広島・長崎への投下		第2次世界大戦後、化石燃料の使用増大、二酸化炭素排出量急増 (1950's)、温暖化		第2次人口爆発、家畜飼養数の増加開始 (1950)	テレビ放送開始 (1953)
1948		人権宣言				
1954	ビキニ環礁水爆実験、第5福竜丸など被曝		水俣病 (1956)、新潟水俣病 (1964)、イタイイタイ病 (1910~1970's)、四日市喘息 (1959~1972)	伊勢湾台風 (1959)	アジアかぜ (1957)	
1963	東海村の動力試験炉JPDR初発電		緑の革命 (1968)		香港かぜ (1968)	
1970	核拡散防止条約					
1972		人間環境宣言	ヴェトナム戦争終結 (1975)			
1979	スリーマイル島原子力発電所事故		遺伝子組み換え (1980's)		後天性免疫不全症候群 (1984)	インターネットの普及 (1982)
1986	チェルノブイリ原子力発電所事故		アメリカ同時多発テロ (2001)	阪神・淡路大震災 (1995)	牛海綿状脳症 (1986)	
1993		生物多様性条約				
2007		先住民権利宣言	ゲノム編集 (2005)、ピークオイル (2006)			SNSの普及 (2004)
2011	福島原子力発電所炉心溶融		放射性物質拡散 (2011)	東日本大震災 (2011)、御岳山噴火 (2014)	鳥インフルエンザ (2005)、豚インフルエンザ (2009)	
2017	核兵器禁止条約			台風18号 (2015)	急性呼吸器疾患 (2019)	
2018		小農権利宣言				人口知能AI (2020)、ビッグ・データ
			人為的環境変動	地史的環境変動		

